



## あす 明日はどうして「あした」というの

### 「明時（あけした）」が「あした」になった

きょうのつぎのひのひのことを、「あした」といいますね。少し難しいことばでは、「翌日」といいます。

「あした」は、もともと「朝」を表すことばでした。漢字で「朝」と書いて、「あした」と読んでいたのです。

この「あした」ということばは、「明時（あけした）」ということばからきたものだと考えられています。つまり、「明時（あけした）」といていたのが、音がつまって、「あした」というようになったというわけです。

いまは、「あした」は、「あす」と同じ意味で使われていますね。

漢字で「明日」と書いたとき、その読み方は、「あす」です。「あした」とは読みません。「あした」というときは、ひらがなで「あした」と書きます。

### 「きのう」といういい方

きょうのまえのひのひを「きのう」といいますね。むかしは、「来し日」といったのです。また、「日」のことを「け」とか「ふ」ともいいました。ですから、「来し日」を「きしふ」といっていていたのです。この「きしふ」が「きのう」という音に変わり、「きのう」といわれるようになりました。

「昨日」という漢字は、特別に、「きのう」と読んでいいことになっています。

（監修・田代 脩）

